

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

がん研有明病院での研修を終えて

福井赤十字病院外科

平崎 憲範

この度、平成30年度日本臨床外科学会国内外科研修プロジェクトにて、がん研有明病院で、平成31年1月21日から1月25日までの1週間研修をさせていただきました。福井赤十字病院外科の平崎憲範と申します。最初にこの様な貴重な機会をいただきました日本臨床外科学会の国内外科研修委員会高山忠利委員長、私を推薦していただきました当科藤井秀則先生、そして研修を快く受諾いただきました佐野武病院長、上野雅資大腸外科部長、福長洋介消化器センター長を始めとしたがん研有明病院の全てのスタッフの方々はこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。卒後15年目となり、一昨年地元福井に戻ってきてからは下部消化管を専門としております。年間大腸癌手術症例：700例以上を施行している日本最大のhigh volume centerであるがん研有明病院を見学したいと思い、同院を選択いたしました。

長期病院を不在にすることもできず、わずか1週間の研修となりましたが大腸外科を見学させていただき、手術以外にも、消化器外科全体カンファレンス、上部もしくは下部消化管カンファレンスなどに参加させていただきました。朝の消化器外科全体のカンファレンスでは、レジデントの先生方が手術報告や術前症例提示をされており、短い限られた時間で、ポイントをおさえた症例のスライドが次々にプレゼンされていくことには驚かされました。また、問題症例についても外科全スタッフで共有し、ディスカッションされていました。あのような徹底した検討によって素晴らしい診療成績が保たれているのであらうと思いました。

今回の研修でなにより驚かされたのがやはり手術です。今回の研修での目標が、ISR、腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術、側方リンパ節郭清、ロボット支援手術でした。ISRの手術は研修期間にはなく見学できませんでしたが、その他の手術は見学することができました。福長先生助手の腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術を見学させていただきましたが、適切なカウンターアトラクションによって驚異的なスピードで手術が進んでいきました。レジデントの先生に対し厳しく指導されていることが印象的でしたが、その内容はすべてが言語化されており、スコピストや自分にも福長先生の考え方が伝わり非常に勉強になりました。また、山口先生のロボット支援手術も見学できました。当院でも導入が開始されたばかりで、リンパ節郭清と骨盤内操作の際にアームの干渉などスムーズな手術進行のための工夫が必要と考えていました。エキスパートの山口先生の手術を見学でき、リンパ節郭清の際と骨盤内操作でターゲティングをやり直し、アームの配置を変えることで無理のないスムーズな手術が行われていました。見学したい手術も各先生方で手順は異なるものの、適切なカウンターアトラクションと、とにかく出血しない手術が印象的でした。短い研修期間ではありましたが、今回の国内外科研修を通じて、手術やカンファレンスなどを見学することにより、優れた手術技術やoncologyに対する考え方を体感できました。研究会への参加や講演を聞くだけでは得ることができない知識や貴重な経験を積むことができました。また、今回のこの貴重な経験を活かして今後の日常診療に還元していき、福井県の医療の発展に貢献していきたいと思っています。最後に、当研修を経験するためにご協力いただきました当医局の先生方に、誠に僭越ながらこの場をお借りしてお礼申し上げ、日本臨床外科学会の国内外科研修の報告とさせていただきます。このような貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。